



日野市環境情報センター(愛称かわせみ館)は環境に関する情報を収集・分析・発信するために、2005年7月に市民・事業者・学校・行政の協働で開設されました。

## 6月26日 第2回「ホタルの夕べ」が開催されました ホタルの乱舞に感動!の一夜でした

蛍は自然環境保全の象徴とも言われ、人間と生物の共生や生物多様性の保全を考えるキーワードとして注目されつつあります。「真堂が谷戸蛍の会」では、日野市に生息する蛍が長年未公開だったことから、一般公開をして皆でこの蛍の生息する自然環境を守り次の世代につなげることをめざして、日野市と共催で昨年「ホタルの夕べ」を開催してきました。

今年も広報で募集した32人の参加者が19:00百草駅前に集合し、しばらく山道を歩き、到着した百草地区センターで蛍について学習会が開かれました。日野市からは市内の蛍の生息状況等の説明、「真堂が谷戸蛍の会」からは、蛍などの生物のための自然環境保全や管理の話、さらに蛍を養殖したり他の地域の蛍やカワニナを放流(遺伝子の攪乱等)しないこと等を含めた生物多様性についても学習しました。30分間の学習会を終え、さらに山道や市街地を歩き、ようやく真堂が谷戸に着きました。当日は湿度が低かったため蛍の飛数が心配されましたが35頭の蛍が乱舞?してくれ、参加者から歓喜の声が上がり皆さん大満足の様子でした。当初、「ホタルの夕べ」の開催は時期尚早と危ぶむ声もありましたが、日本人なら誰でも大好きな蛍とその生息環境を見ていただくことで、皆で守っていこうという気持ちになることを「真堂が谷戸蛍の会」は願っています。

真堂が谷戸は、日野市の東側百草地区の最東端にある小さな小さな里山です。しかし、この地区付近も、開発の波が押し寄せてきたことから蛍を守らねばという危機感がつのり、平成20年11月、雑木林と蛍などを保全するための「真堂が谷戸蛍の会」が立ち上がりました。この小さな里山は、雑木林からの湧水でカワニナ、サワガニ、蛍などが細々と生息しています。当会の活動は蛍だけではなく、生物多様性を考えた里山の保全活動と位置づけ、雑木林の管理、畑や田んぼの管理、そして1ヵ月間にわたる蛍の調査等、楽しく汗をかきながら活動しています。(真堂が谷戸蛍の会 笹木 延吉)



## 緑のカーテンを設置しました 今年も真夏の日差しを遮り涼しい風を届けてくれるでしょう

かわせみ館では毎年、緑のカーテンづくりを行っていますが、今年も5月2日に、どんぐりクラブの皆さんの協力を得て、建物の西側の壁面にゴーヤを使用した緑のカーテンを設置しました。2階の窓の上までネットを張りゴーヤの苗を15本植え、現在(7月10日)2階の窓の上まで育ちました。小さな実もつき始めています。夏の終わり頃には大きくなった実を収穫し、かわせみ館を訪れた市民の皆さんにお配りする予定です。

また、市が平成20年度からスタートさせた「ふだん着でCO2をへらそう」事業でも、緑のカーテンづくりの参加者を募り、その取り組み内容を市役所ロビーに掲示し、緑のカーテンの効果を市民に広くPRしています。

かわせみ館ではゴーヤを緑のカーテンにしましたが、ある種苗会社の調査では「2013年、緑のカーテンにしたい植物のベスト3」は、ゴーヤ、アサガオ、キュウリでした。また、この調査ではカーテンづくりのリポート率が90%を超え、その背景には近年の省エネや食育への意識の高まりがあるようだ、と分析しています。

では、緑のカーテンのエコ効果をみてみましょう。暑い真夏の日差しを遮ってくれるのはもちろん、

- 緑のカーテンは植物が根から吸った水分を葉から蒸発させ周りの熱を奪います。その水蒸気を含んだ涼風を室内に取り込めば、エアコンなどの使用を抑えられます。(東北電力「緑のカーテンとは」)
- 緑のカーテンがあるとエアコンの消費電力は平均30%節電されます。(中部電力「省エネ効果の実証」)
- 緑のカーテンの「ある室内」は「ない室内」より最大で3.8度、平均で1.7度低かったという実験結果があります。

(「グリーンカーテンの節電効果」)

そのほかにも、CO2を吸収する効果や、収穫して食べる楽しみもあります。今年の夏も緑のカーテンがしっかり日差しを遮り、かわせみ館に涼しい風を届けてくれることでしょう。



### <浅川流域市民フォーラム>

当会は、日野市、八王子市の市民団体が、浅川流域の情報交換や協働することを目的に、2000年に自治会、町会、一般市民に広く参加を呼び掛けて発足しました。

当時は、河川法の改正で環境と住民参加が新たに加わり、国交省が多摩川水系河川整備計画を、東京都が浅川圏域河川整備計画を策定する時期であったため、当会も住民説明会の開催要請や策定への要望書の提出などを行ってきました。その他、河川ウォッチング、シンポジウム、工事説明会および見学会、勉強会、調査活動、清掃活動、ニュースの発行などを行っています。

設立から16年目に入り、最近の具体的活動は、八王子での浅川クリーンデー開催、八王子市環境フェスティバル・日野市水辺の資料館への出展、身近な水環境の全国一斉調査への浅川流域参加者のまとめと参加・水質マップ作り、工事説明会・見学会の開催、浅川流域連絡会(東京都主催)への参加、他団体との情報交換、ニュースの発行を行っています。

私たちが目指すのは、浅川流域の「いい川づくり」です。

「いい川」は人それぞれですが、いろんな生きものと触れ合える環境の身近な自然である川を次世代に残していきたいのです。

この10年で水質が向上し、アユやモクズガニも遡上してくるようになりました。しかし、気候変動などの影響もありますが、近年では水涸れする支流が増えています。治水のためとはいえ、長年にわたって浅川では大規模工事が繰り返されています。浅川本流では、護岸改修により今まであちこちにあった護岸からの湧水が伏流し、流量に寄与しません。そのため出水時の魚の避難所であり産卵の場所であるワンドが消滅しています。

水が流れていてこそその「川」です。関心を持っていただけたらと思います。

連絡先：事務局 諏訪祥子 電話042-621-1779

## ★日野の植物との触れ合いとその保全★ (その3)

### <絶滅危惧種の保全への取り組み>

三池田 修 (東京都立高校教諭、南平在住)

日野市には、市内の緑地を中心に国や都により絶滅危惧種に選ばれている植物が多数あり、各地で市民による保全活動が行われています。

保全とは、人が手をつけないことではありません。国は生物多様性を脅かす危機の中で、里山での手入れの不足や外来生物の侵入をあげています。手入れの不足では、雑木林の中がササで優占され春植物が衰退したり、林の縁が藪にされて林の縁を好む種の衰退を招いたりする例があります。かつて里山の暮らしに寄り添う形で生きてきた植物が、今は生息の適地を失い絶滅危惧種に選ばれている実態があります。経済的な価値ばかり優先するのではなく、在来の植物を楽しみ、残すという視点も大切でしょう。外来生物の侵入では、在来の植物に対して圧倒的な競争力で繁茂する外来種があります。放置すれば絶滅危惧種を含めた在来種の衰退を招くため、人の手による駆除が必要になります。

保全の目標の一つは、自生地で子孫が残せる環境を整えることです。日野市北部の東光寺緑地の場合、カザグルマやカタクリなどの春植物や数が減少した草本が生息していますが、観賞価値もあることから継続して保全活動が行われています。前述の多様性の危機の指摘と植物の生育特性を考慮して、冬季など休眠期間にササや繁茂しやすい低木類の剪定および高木の枝打ちをしたり、また開花後や夏季には繁茂したつる植物や外来種の選択的な除去をしています。



一方でカザグルマのように、交雑可能な園芸品種が自生地の近隣で栽培されている場合には園芸種の栽培の自粛などといった難しい課題にも直面しています。市民への啓発、行政や研究者の協力など保全活動の組織づくりが必要です。

本来は科学的なデータを取りながら、現活動が適切かどうか判断しなければなりません、十分にやりこなせないのが現状で、至らなさを感じることもあります。

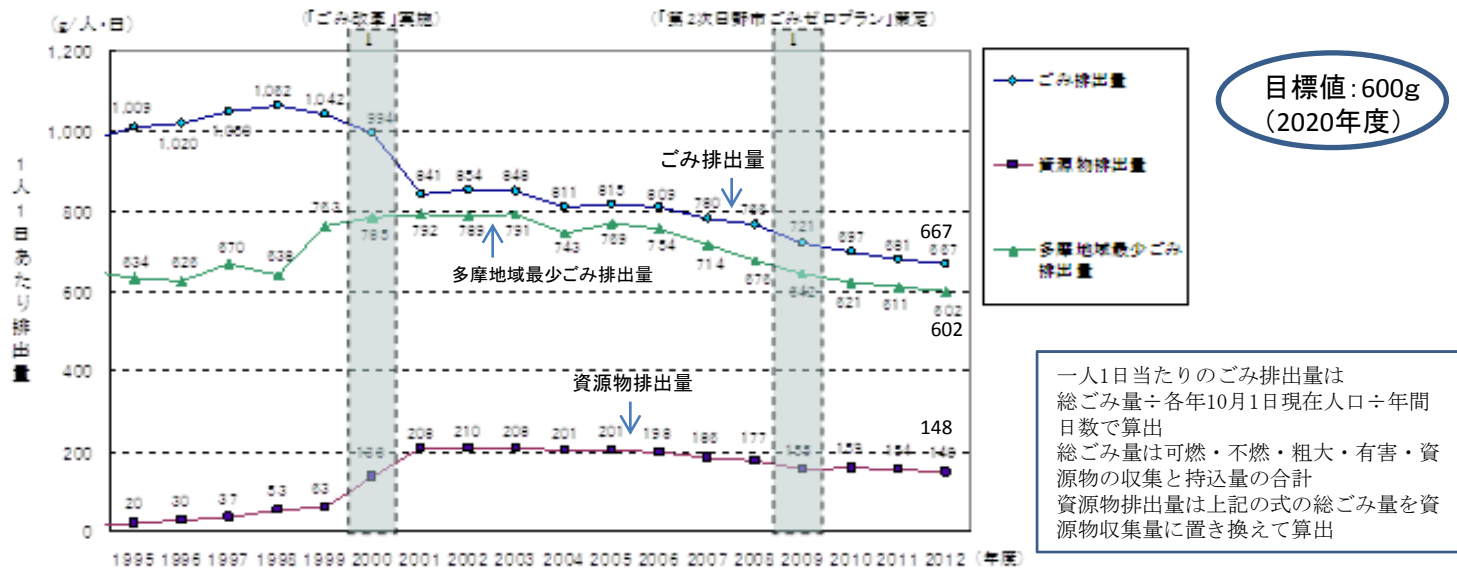
## ■2012年度 日野市環境白書から② 「市民一人1日当たりのごみ排出量はどれくらい？」

2012年度の日野市の市民一人が1日に排出するごみの量は667g、この10年ほどで約2割減りました。それでも1月で約20kg、1年では約243kg、4人家族であれば1年間で約974kgのごみを出したことになります。

また、2012年度の総ごみ量は45,359t、4tトラックで11,340台分です。前年度と比べると、家庭などからの収集ごみが787t減少（2%減）、クリーンセンターなどへの持込ごみが193t減少（3.4%減）しています。人口は1年間で150人ほど増えましたが、市民一人当たりのごみ排出量が減ったことにより、ごみの総量は前年より減少しました。

ごみの資源化率は36.1%、総ごみ量のおよそ1/3が資源として再利用されています。2000年10月のごみ改革や2006年7月から始まった焼却灰のエコセメント化事業により、1999年に14%ほどだった資源化率は大幅に向上し2006年以降は36%前後で推移しています。

ちなみに2012年度、多摩地域で一人1日当たりごみ排出量が最も少なかった自治体は小金井市で602gでした。



## ■「かわせみ館」にいらっしゃいませんか？夏休みの自由研究のヒントがあるかも…

日野市環境情報センター「かわせみ館」をご存知ですか？2005年7月に市民参画により策定された「日野市環境基本計画」に基づき、環境に関わる様々な情報を収集・発信することを目的に開設されました。生活・保健センターの東側に隣接した2階建ての建物が「かわせみ館」です。

1階には展示室と図書コーナーがあります。入口のドアを開けると、日野市の鳥「翡翠（かわせみ）」がお迎えます。室内には、市内の川や用水路に生息するアブラハヤやコイ、ドジョウなどいろいろな淡水魚が泳ぐ水槽、市内で見られる昆虫の標本や珍しい「モズのハヤニエ」の標本、オオスズメバチなど4種類のスズメバチの個体標本や大きなスズメバチの巣の実物などが展示されています。カラスやオナガなどの鳥の巣もあります。南平丘陵公園で伐採された樹齢131年のサワラの年輪標本があり、この年輪には日野市の生い立ちがわかる年表を表示しています。エコ関連ではかわせみ館スタッフ手作りの小水力発電機やソーラークッカーなども展示しています。図書コーナーには、環境保全活動をしている市民団体が発行するニュースやパンフレット、日野市や東京都、国、全国の自治体の環境関連資料、小学生を対象としたいろいろな図鑑や専門的な研究に役立つ文献、動植物の生態に関するビデオ・DVDや植物の写真データの画像資料などを展示しています。そして、かわせみ館には水や河川の専門家や植物の専門家、日野の自然に詳しいスタッフがいます。日野市の環境や自然について知りたいことや、疑問、質問に答えてくれます。皆さん、是非お出でください。お待ちしております。

もうすぐ夏休み、小学生のお子さんをお持ちのお父さん、お母さん、自由研究のヒントがあるかもしれませんよ。

2階には会議室（定員18名）があります。環境関連の市民団体の方であれば、事前のお申込みで自由にご利用いただけます。

かわせみ館に行くには、高幡不動駅から日野駅行きのバスで約10分、日野駅からは同路線の高幡不動駅行きのバスで約6分、「生活・保健センター前」で下車してください。壁面が緑のカーテンやテイカカズラ、ノウゼンカズラなどの緑に覆われた建物です。



## ■4～6月の活動報告

### 5月11日（日） みんなの環境セミナー「東光寺緑地の管理と植物観察」

明星大学の学生を中心に市民も含め19名が参加しました。自然を守る会元会長飯島氏から雑木林管理の歴史や大切さについての解説を受けた後、緑地の中を歩きながら環境情報センタースタッフから緑地の植物についての説明を聞き緑地管理の現場に到着、東豊田緑湧会の小太刀氏から東光寺緑地の管理や保全の状況についてお話を聞きました。市民の参加者にはタケノコや山ウドのお土産もありました。この環境セミナーは今年の2月に開催予定でしたが、大雪のため中止となり今回あらためて開催したものです。



### 6月11日（水）～25日（水） 市役所1階市民ホール「クレマチスの仲間たち写真展」開催

市役所1階市民ホール展示企画第3弾。絶滅危惧種のカザグルマを中心に、日野市近辺で見られるクレマチスの野生種の写真展を開催しました。市役所を訪れた市民の皆さんが熱心に見ていました。

### 6月15日（日） みんなの環境セミナー「クレマチス、野生種のいろいろと保全の必要性」

写真展と同時開催で、市役所303会議室でクレマチスの野生種「カザグルマ」を事例にその保全の必要性について、クレマチス研究家三池田修氏に解説していただきました。参加者は17名、「興味深い話だった」「保全の大切さ、難しさがわかった」などの声が聞かれました。また、抽選で5名の方に講師から提供された「カザグルマ」の苗がプレゼントされました。

### 7月3日（木） みんなの環境セミナー「谷仲山の水と緑を見る・知る・探る」

市民環境大学の公開講座として開催。講座の生徒や環境大学0B、市民など33名が参加しました。かわせみ館に集合し、歩いて日野緑地にある谷仲山へ。現地では小倉先生の指導で湧水の水質検査を行ったり、環境情報センタースタッフから緑地や段丘崖の植物について解説を受けました。

## ＊＊7月～9月の行事・イベントのお知らせ＊＊

### 7月20日（日）、8月3日（日） みんなの環境セミナー「昆虫を観察し、標本を作ってみよう1、2」

郷土資料館と共催で、昆虫採集と標本作りの教室を2回にわたり開催します。夏休みの自由研究にも最適です。募集人数は親子10組、参加料は2回で500円。6月15日発行の広報「ひの」でもお知らせしました。

### 8月2日（土） みんなの環境セミナー「水車っておもしろい！電気もつくるし、白米もできる」

向島用水親水路の水車で精米や発電実験をします。ミニ水車を作って回す体験コーナーや太陽光を使った実験もあります。夏休みの一日、親子で自然エネルギーについて考えてみましょう。参加は自由です。日野の水車活用プロジェクトと共催です。7月15日発行の広報「ひの」でお知らせします。

### 8月15日（金）～30日（土） 「日野の魚たち」写真展

市役所1階市民ホール展示企画第4弾として、浅川や市内の用水路に生息する魚たちの写真展を開催します。8月1日発行の広報「ひの」でお知らせします。皆さん、是非見に来てください。

### 8月30日（土） みんなの環境セミナー「太陽熱でサバイバル！」

エコライフ研究家の高野達男氏の指導で、ソーラークッカーを作ります。暮らしの中で太陽エネルギーをどう活用するか、親子で楽しく学びます。参加料は300円。8月1日発行の広報「ひの」でお知らせします。

### 9月13日（土） みんなの環境セミナー「里山づくり」

明治大学農学部の倉本宣教授を講師に迎え、里山の現状や保全についての取組みなどを、実例をもとにいろいろな角度から解説していただきます。9月1日発行の広報「ひの」でお知らせします。

## ★「ひの緑のトラスト」募金活動にご協力を

百草地区には貴重な雑木林が市民と行政の協働により残されており、市民による保全活動が活発に行われています。この貴重な里山の保全を進めるため「日野緑のトラスト」が設立され、募金活動を行っています。

環境情報センターでは「ひの緑のトラスト」の事務局として、募金活動などを担当しています。市内の緑地保全のための募金にご協力をお願いします。詳細は環境情報センターまでお問い合わせください。



発行 日野市環境情報センター かわせみ館  
〒191-0011 東京都日野市日野本町1-6-3  
Tel/fax:042-581-1164  
Eメール: kankyo@m2.hinocatv.ne.jp